

2009 年度後期自治委員会総会決議

大阪府立大学中百舌鳥キャンパス学生自治会中央執行委員会

1. はじめに

先日、学長率いるプロジェクトチームによって大阪府立大学(以下、本学)の改革案が打ち出されました。この案は学部再編を初めとした様々な改革を示しています。学生自治会では、この改革案を初めとした学生生活に影響を与えるであろう事項や、学生生活において存在するような問題に対応するために、以下の活動を行ってきました。

本学が大きく変わろうとしている現状を機に自治会活動に関心を持ち、今後の学生生活をより良くするために、学生自治会と共に活動していきましょう。

2. 活動報告・活動方針

学生自治会は、2009 年度前期自治委員会総会から現在に至るまで **"これまでの活動"** で示した活動を行ってきました。また、2010 年度前期自治委員会総会に至るまで **"これからの活動"** で示した活動を行います。

【要望書交渉に関する活動】

・これまでの活動

学生自治会は毎年、要望書交渉という活動を行っており、学生が日頃から抱く要望をまとめた要望書を作成し、学生の総意として大学に訴えることでその実現を目指しています。この活動で用いる要望書は真に切実な要望をまとめて作成しており、自治委員会総会で承認されて初めて学生の総意として扱うことができます。昨年度までの要望書交渉の結果として、食堂の増築・改築やオープンスペース・サテライトホールの利用時間延長などの要望が実現しています。このように学生の声を集め大学に訴えることで、学生生活をより良くしていくことができます。

要望書を作成するにあたり、学費や施設、講義に関する要望を初め、学生が日頃から抱いている要望を調査する必要があります。そこで学生自治会は、10 月上旬から 11 月下旬にかけて要望アンケートを実施しました。また、【大阪府立大学のあり方に関する活動】でも述べていますが、大阪府や大学によって本学の今後のあり方が検討されてきました。学生自治会は、本学のあり方が検討される際に学生の意見を反映させる必要があると考え、アンケート用紙に本学の今後のあり方に関する要望を調査するための項目を設ける予定でした。しかし、アンケート用紙作成時、大阪府は本学の今後のあり方を明確に示していなかったため、アンケート用紙にそのような項目を設けることができませんでした。

また学生自治会では、学費や講義などに関する要望は全学的な内容であり、中百舌鳥キャンパスの学生だけでなく本学の学生全員で要望することでより実現に近づくと考えました。そこで、学費や講義などに関する要望アンケートを羽曳野キャンパスの学生を対象に実施しました。なお、羽曳野キャンパスでの要望アンケートの実施は、羽曳野キャンパス学生自治会の協力を得て行いました。

要望アンケートは教員に講義時間開始直後の数分を頂いて配布し、講義後に回収するなどして実施しました。また、研究室に配属されている学生もいるため、それぞれの研究室でも実施しました。なお、学生自治会がアンケートを配布し回収するまでの時間で要望を書ききれないことや、学生がアンケートを提出した後に新たな要望を抱くことが考えられます。このような場合でも回答できるように、アンケート用紙を付属させた回収箱を中百舌鳥キャンパスの構内各所に設置しました。また、学生自治会や大学に対する意見を集めるために常設している意見箱も回収箱として活用し、最終的に 655 枚のアンケートを回収しました。

要望アンケートの実施後、集めた要望を基に学生自治会は要望書案を作成しました。また、要望に具体性や説得力を持たせるために、要望の内容について調査を行い、結果をまとめた要望書資料を作成しました。

・これからの活動

学生自治会は、要望書と要望書資料を用いて大学と交渉します。交渉の場には奥野武俊学長や寺迫正廣学生センター長を初め、大学の各部局の担当者に出席していただけるように調整していきます。

また要望書に掲載しなかった意見も学生の実情を表しています。これらの意見を学費や施設などの項目ごとに分けて掲載した意見集を作成し、大学運営の参考にしてもらうため交渉の際に大学に提出します。また生活協同組合にも運営の参考にしてもらうために提出します。

例年、要望書に対する大学の回答は公開形式で行ってきました。公開形式で行うことで、学生は直接大学から回答を聞くことができ、文書だけで大学の回答を受けるよりも、回答の意図や実情を正確に理解することができます。また、その場で担当者に質問することもでき、学生と大学の相互理解を深めることにつながります。このように要望書に対する大学の回答を公開形式で行うことは有意義であると考えます。そこで今年度も回答を公開形式で行えるように調整していきます。また、要望書公開回答の参加者は年々減少していましたが、昨年度は81名に増加しました。しかし、これは昨年度の要望アンケートの回収枚数の1割程度の人数にすぎず、参加者数が多いとは言えません。そこで、多くの学生が参加し、より充実した公開回答とすることができるように、学生の関心を今まで以上に高める方法を検討していきます。

【大阪府立大学のあり方に関する活動】

・これまでの活動

9月8日(火)、大阪府の第22回戦略本部会議にて本学のあり方が話し合われました。この会議では、本学の経済学部と人間社会学部に類似した学部を大阪市立大学も運営していることが、大阪府と大阪市で二重行政となっていると指摘されました。そして、財政難である大阪府が税金を投入してまで類似学部を運営することに対して疑問が投げかけられました。

そして、10月20日(火)、本学が学部を再編し、理工系に特化することを検討しているとの新聞報道がありました。翌日には、学長から在学生に宛てたメッセージが本学のホームページに掲載されましたが、学部再編を検討することに関して学生に具体的な情報を伝えるものではありませんでした。これらの状況を受け学生自治会は、学生がないがしろにされたまま大学によって本学のあり方が決定されることを危惧しました。そこで学生自治会は、そのような大学の姿勢に抗議するとともに、学部再編を検討するにあたって学生の意見を聞くことと、説明会などを通じて学部再編の検討に関する情報を学生に公開することを大学に要望しました。その後、11月17日(火)に学長が学生団体連絡会議の構成団体に対する説明会を開き、本学の置かれている状況や、当時検討していた本学の今後のあり方に関して説明を受けました。しかし、この話し合いの時点では大学が本学の今後のあり方を検討している途中であったためか、本学を理系中心の大学にすること以外は具体的に知ることはできませんでした。

その後、12月3日(木)に大学は大阪府に「大学改革案」を提出しました。この大学改革案の提出に伴い、学生団体連絡会議の構成団体と学生センター長で話し合いを12月8日(火)に行いました。この話し合いでは、大学が作成した大学改革案に関して説明を受けましたが、学生に対して事後承諾を求めただけであり、大学改革案の正当性に疑問が残りました。

なお、8月10日(月)に学生自治会は大阪府大学教職員組合と共に、本学の将来を考える「大学憲章学習会」を開催しました。この学習会では、本学のあり方についての意見が交わされ、有意義な場となりました。しかし学生自治会は、大学改革に関して活動を行うことが重要と考えており、大学憲章の制定に関する活動は現在予定しておりません。

【大学改革に関する活動】

・これからの活動

【大阪府立大学のあり方に関する活動】のこれまでの活動で述べたとおり、12月8日(火)に学生センター長との話し合いを行いましたが、学生に対して事後承諾を求める態度が否めないものであったため、大学改革案に対して学生が積極的に意見を発する必要があると考えました。そこで学生自治会は、学生に大学改革について知ってもらうために、改革の内容やその背景を載せた冊子を作成し学生に配布します。また併せてアンケートを実施し、学生の大学改革に対する意見を集めていきます。集めた意見を基に、大学改革に対する学生自治会の方針を決定し、今後の活動を検討していきます。

なお、大学は12月21日(月)に学長による説明会を予定しています。大学改革案に対して関心を抱いている学生は、説明会に参加することで大学改革案をより理解した上で意見を発することができるため、説明会はとても有意義だと考えられます。そこで学生自治会では、学生に対して説明会の情報宣伝を行い、参加を促していきます。

【りんくうキャンパス移転に関する活動】

・これまでの活動

りんくうキャンパスと中百舌鳥キャンパスでは学生の置かれている状況が異なっています。そのため、りんくうキャンパスでの学生生活をより良くするには、りんくうキャンパスの現状を把握した上で活動を行うことが必要です。そこで学生自治会は、りんくうキャンパス学生会（仮）（以下、学生会）との話し合いを通じて、りんくうキャンパスの現状を把握するなど、りんくうキャンパスでの活動を行うための情報収集を進めてきました。また、学生会の活動がりんくうキャンパスでの学生生活をより良くすることに繋がると考え、話し合いを通じて学生会への協力について検討してきました。

また、中百舌鳥キャンパスから遠く離れたりんくうキャンパスでも学生が自治会活動に意見を発することができるように、学生会の協力のもとに意見箱を設置し、意見をまとめてきました。

・これからの活動

学生自治会は、今後もりんくうキャンパスで学ぶ獣医学科2回生以上の学生も対象に活動を行っていきます。また、引き続き月に1度学生会との話し合いを行い、学生会への協力を検討するとともに、学生自治会がりんくうキャンパスでの活動を行うための情報収集を進めていきます。

学生自治会は、どのような活動を行えばりんくうキャンパスでの学生生活をより良くできるか、しっかりと把握した上で活動を行う必要があると考えました。学生会との話し合いを通じてある程度の現状把握は行っていますが、りんくうキャンパスへの移転によって学生が受けた影響はそれぞれ違います。そこで、りんくうキャンパスの学生を対象にアンケートを実施し、りんくうキャンパスへの移転によって特に影響を受けたと考えられる課外活動について意見を集めます。集めた意見や学生会との話し合いを基に、りんくうキャンパスでの学生生活をより良くすることができる活動を検討していきます。

【情報宣伝・収集活動】

・これまでの活動

自治会活動とは、より良い学生生活を目指して学生全員で行うものです。学生全員の意見を活動に反映させていくことで活動はさらに充実し、学生生活をより良くしていくことができます。そのため学生に自治会活動について詳しく知ってもらった上で意見を発信してもらう必要があります、そのために情報宣伝・収集活動は非常に重要な活動であるといえます。

これまで具体的に、自治会総合情報誌『NASCA』や立て看板、ビラ、ポスター、横断幕、B12棟1階の掲示板装飾、昼の情報宣伝、WEBSC、ホームページなどを用いて情報宣伝を行ってきました。なお『NASCA』には、自治会活動に関する情報の他にも、新型インフルエンザへの対応など学生生活に有益であると考えられる情報も掲載しました。また、情報宣伝の効果を高めるために、ホームページを一部リニューアルしました。

なお、学生自治会では学生が日頃抱く意見を集めるために、中百舌鳥キャンパスの構内2箇所とりんくうキャンパスの構内1箇所に意見箱を、ホームページに掲示板を設置しています。寄せられた意見は学生自治会で話し合い、自治会活動に反映させる、または大学や生活協同組合に伝えるなどしてきました。意見に対する学生自治会の回答は、意見箱横の掲示板への掲示、『NASCA』やホームページへの掲載を通じて学生に発信してきました。

・これからの活動

学生自治会は今後も、学生の自治会活動への関心を高めるために『NASCA』や立て看板などの手段を用いて情報宣伝を行い、自治会活動に対する意見を学生に発してもらうために意見箱やホームページなどを活用して情報収集を行っていきます。また、既存の情報宣伝・収集活動の効果を上げる方法を検討するとともに、新たな手段を模索していきます。なお、学生自治会に寄せられた意見はすべて検討し、今後の活動に反映させていきます。意見に対する回答は意見箱横の掲示板への掲示や、ホームページへの掲載を通じて学生に発信していきます。

【学生団体連絡会議】

・これまでの活動

本学に存在する 11 の学生団体は、学生団体間の情報交換に加えて、それぞれの学生団体だけでは解決が困難な問題に対処するために、月に 1 度学生団体連絡会議を行ってきました。

4 月の学生団体連絡会議で発足した第 36 回七夕祭実行委員会は、「学生と地域の方々が気軽に参加でき、多くの人に楽しんでもらえる地域に根ざした夏祭りとする」ことを目的に活動し、6 月 26 日（金）に第 36 回七夕祭を開催しました。学生自治会は、地域住民と学生が交流できる七夕祭は学生にとって有益であると考え、活動場所としての学生自治会室の提供や、実行委員としての参加などを通じて七夕祭実行委員会に協力しました。七夕祭当日はステージ企画や盆踊り、お化け屋敷などの企画が行われました。また、多くの模擬店が並び、参加者にも恵まれ大いに盛り上がりました。

10 月の学生団体連絡会議では、新入生を全学的に歓迎するために第 28 回全学新歓実行委員会が発足しました。

また学生団体連絡会議の構成団体は、月に 1 度学生センターとの話し合いを行ってきました。今後の活動の参考にするために、この話し合いの中で学部長連絡会議・教育研究会議に関する報告を受け、意見や情報の交換を行ってきました。

・これからの活動

今後も学生団体間で意見や情報を交換するために、月に 1 度学生団体連絡会議を行っていきます。

毎年 3 月から 4 月にかけての新入生歓迎時期にはクラブやサークルなどの団体が勧誘活動を活発に行います。しかし中には度を過ぎた勧誘活動を行う団体も存在し、入学手続きやカリキュラムオリエンテーションなどの妨げとなります。そこで来年の新歓時期を問題なく終えられるように、学生団体間で話し合い連携を取っていきます。

第 28 回全学新歓実行委員会は新入生を全学的に歓迎し、大学生活を始める上で新入生が抱く不安を解消し、順調に滑り出せるような活動を検討しています。この活動は新入生の学生生活をより良いものにする有益な活動だと考えます。そこで学生自治会は、活動場所としての学生自治会室の提供や、実行委員としての参加などを通じて、全学新歓実行委員会に協力していきます。

今後も学生団体連絡会議の構成団体は月に 1 度学生センターとの話し合いを行い、大学との意見・情報交換を行っていきます。また学生センターとの話し合いで有益な情報が得られた場合は、『NASCA』やポスターなどを通じて学生へと発信していきます。

【立て看板管理局】

・これまでの活動

中百舌鳥キャンパスでは多くの学生団体やクラブなどが情報宣伝のために立て看板を用います。しかし立て看板は非常に大きいため、強風や不注意によって倒れると重大な事故を引き起こす恐れがあります。そこで学生自治会は、友好祭実行委員会と白鷺祭実行委員会と共に立て看板管理局を設置し、立て看板を安全に利用できるように管理・運用してきました。

立て看板管理局は立て看板の利用団体にマニュアルを渡す、また強風時に立て看板を倒すなどして、立て看板の安全な管理・運用に努めてきました。なお、大学祭などのステージで用いられるステージバックも、立て看板と併せて管理・運用を行ってきました。

11 月 1 日（日）から 11 月 3 日（火）にかけて行われた第 61 回白鷺祭本祭典では多くの立て看板が立てられる上に、立て看板の危険性を知らない一般の方が多く訪れるので、普段以上に立て看板の運用に対する注意が必要と考えられました。そこで立て看板管理局は、本祭典中に見回りを行い、強風の際には立て看板を撤去しました。その他にも、立て看板に人が近付かないように立て看板の周りに立ち入り禁止テープを張り、またフリーマーケットの出店者に注意を促すビラを配布しました。

【立て看板管理局】

・これからの活動

立て看板管理局は引き続き立て看板やステージバックが安全に利用できるように管理・運用を行っていきます。

毎年3月から4月にかけての新入生歓迎時期は多くのクラブやサークルが立て看板を立てるため、立て看板管理局では、新入生歓迎時期に立て看板を立てる位置を割り振る場所割会議を行います。また、普段よりも多くの立て看板が立てられるため、一層の注意が必要と考えます。そこで場所割会議を利用して、立て看板の利用団体に注意を促していきます。

例年友好祭では白鷺祭同様に多くの立て看板が立てられる上、立て看板の危険性を知らない一般の方々が多く中百舌鳥キャンパスを訪れます。そのため、来年度の友好祭本祭典中に重大な事故が起こらないように、普段よりも一層の注意をする必要があります。そこで立て看板管理局では白鷺祭同様に、立て看板の見回りや立ち入り禁止テープの設置、立て看板への注意を促すためのビラの配布を通じて、立て看板の安全な管理・運用に努めていきます。

【大型PA再購入実行委員会】

・これまでの活動

大型PA再購入実行委員会は大型音響機器（以下、大型PA）を再購入することでクラブやサークルなどの課外活動を充実させ、大学内の文化的発展を目的に活動している団体です。大型PA再購入実行委員会は、学生自治会・友好祭実行委員会・白鷺祭実行委員会・生活協同組合・白鷺音響企画共同体S.T.A.F.-1・体育会・文化部連合の7団体で構成されます。今までに購入してきた大型PAは白鷺音響企画共同体S.T.A.F.-1が代表して所有し、管理・運用を行っています。

大型PA再購入実行委員会は2010年度に第3期再購入を控えています。この再購入を円滑に行うために月に1度定例会を行い、機材の現状を確認するなど再購入に向けて話し合ってきました。

・これからの活動

大型PA再購入実行委員会は引き続き月に1度定例会を行い、第3期再購入が円滑に行えるように準備していきます。また第3期再購入までに機材が消耗または故障し、修理や再購入をせざるを得ない状況になることが考えられます。その場合は、大型PA再購入実行委員会の積立金を使用する、もしくは後援会に援助を求めるなど、柔軟かつ迅速に対応していきます。

【ステージ管理委員会】

・これまでの活動

中百舌鳥キャンパスでは、大学祭の企画や昼休憩時のクラブ・サークル活動のためにステージが頻繁に用いられています。このようにステージは学生が課外活動を行う上で重要なものであると言えます。ステージの管理・運用は友好祭実行委員会と白鷺祭実行委員会が行ってきましたが、ステージの老朽化が進んでいました。現在までは傷んだ天板を取り換えることで対応してきましたが今後ステージを新たに購入する必要があります。また無断でステージに上る学生がおり、日頃から正しい管理を行っていく必要があります。そこで学生自治会・友好祭実行委員会・白鷺祭実行委員会の3団体でステージ管理委員会を設置し、ステージの補修や再購入を検討するとともに、クラブやサークルが安全に利用できるようにステージの管理・運用を行っていくことになりました。

ステージ管理委員会は2010年度にステージを再購入するために準備を進めてきました。しかし鉄の値段の高騰により、予定していた金額よりステージが高価になり、積立金額を可能な限り増額しても購入できないことが分かりました。そこでステージ管理委員会では文化部連合と後援会に援助を求めました。

・これからの活動

今後もステージ管理委員会は2010年度にステージを再購入できるよう準備を進めていきます。また、ステージを正しく管理・運用するための手段をステージ管理委員会で話し合い、検討していきます。

【工学部教員紹介冊子】

・これまでの活動

学生自治会では、「冊子を通じて工学部の学生に教員を紹介し、親しみを持ってもらう。また研究室に興味を持ってもらうことで気軽に研究室を訪れ、日頃から抱く意見を教員に直接伝えられるようにする」ことを目的に工学部教員紹介冊子を作成してきました。冊子が完成し、既に配布した学科もありますが、まだ冊子を作成中の学科がほとんどです。また、一部の学科では教員の協力が得られず冊子を作成することができませんでした。

・これからの活動

今後学生自治会では冊子が完成し次第、各学科の1回生から3回生の学生を対象に、教員紹介冊子を配布していきます。また配布する際には、教員紹介冊子に対するアンケートを併せて実施し、今回の活動の効果を検証していきます。また教員の協力が得られず、教員紹介冊子を作成することができなかった学科について、今後の対応を検討していきます。

【人間社会学部新聞】

・これまでの活動

これまで学生自治会は「より有意義な学生生活を送ることができるように、人間社会学部の学生に向けて、情報を必要な時期に合わせて提供する」ことを目的に、人間社会学部新聞『^{ジンジャーズ}人社's!』を作成し、人間社会学部の学生を対象に配布してきました。

人間社会学部には就職活動と並行して教員採用試験や国家試験の勉強を行う学生が多く、それらの学生の不安を解消するために、就職活動について掲載したものを作成する予定でした。しかし、今年度就職活動を終えた学生がゲストとして参加する企業説明会が大学構内で行われ、経験者の体験談を聞くことが可能になりました。そのため、『^{ジンジャーズ}人社's!』を通じて情報提供を行わなくても就職活動に関する不安が解消されたと考え、今回は『^{ジンジャーズ}人社's!』を発行しませんでした。

今後、人間社会学部の学生がどのようなことに対して不安を抱き、どのような情報を必要としているのかを検討し、必要に応じて『^{ジンジャーズ}人社's!』を発行していきます。

3. おわりに

学生は教職員と同じく大学の構成員です。学生が大学運営に対して意見を発することで大学を良くすることができ、ひいてはより良い学生生活を実現することに繋がります。上でも述べた通り、本学の改革案を大学が打ち出しました。大学構成員の一人として私たち学生は、この改革案に対して意見を発することが非常に重要です。ぜひこの改革案を機会に、改革が自分に与える影響や、理想とする改革方法などを考え、意見として発してください。そして、より良い学生生活の実現を目指していきましょう。